

あいち農産物生産流通レポート

平成25年9月号

情報サロン		
・シンガポールでマーケティング調査を実施しました	(食育推進課)	1
地域トピックス		
・よりよい出荷を目指して～いちじく目揃会を開催!!～	(尾張農林水産事務所)	4
東日本情報		
・第8回アグリフードEXPO東京2013が開催されました	(東京事務所)	6
西日本情報		
・新規需要米の取組動向について	(園芸農産課)	8
フラワーページ		
・花の楽しみ方	(東京事務所)	10
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		12
・名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し		13
花き		
・切花・鉢花の9月の見通し(県内市場)		25
輸出入		
・主要農林水産物の輸出入実績(2013年6月)		29
関連指数		30

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6421

シンガポールでマーケティング調査を実施しました

愛知県では、県産農林水産物等の海外における販路開拓を支援しており、今回は、県産農林水産物等の輸出先として有望と考えられるシンガポールにおいて、マーケティング調査を実施しましたので、その結果の概要を紹介します。

1 シンガポールの基本情報

シンガポールは、約 715.8 km² (愛知県約 5,164k m²) の国土に、人口約 531 万人 (愛知県約 743 万人) となっており、様々な人種と宗教が互いに共存しています。

また、国民経済を見ると、国民一人当たり GDP は、日本より 5,000US\$ 多い 52,000US\$ と、アジア一の経済を誇っています。一方で、国土が狭く、食料の生産基盤がほとんどないことから、食料の大部分は輸入に依存しています。

2 食習慣などについて

共働き世帯が多く、所得も高いことから外食中心の食生活です。食の嗜好は、味付けの濃いものや、香辛料の効いたもの、甘い物を好む傾向にある一方、薄味や塩辛いものが苦手とされています。日本食品は、健康、安全、安心のブランドイメージがあることから、ここ 4、5 年で日本食レストランが倍増し、約 900 軒にのぼっています。



シンガポール市街地の様子

3 食品の主な販路について

食品の小売りは、現地の大手スーパー 2 社 (ワールドストレージ、フェアプライス) が合わせて 8 割以上のシェアを占めており、他には伊勢丹、高島屋、明治屋等の日系百貨店もあり、日本食品のコーナーも設置してあります。



小売り店における日本農産物コーナー

4 調査結果の概要

ジェットロシンガポール事務所や日系百貨店等において、日本食品の取り扱い状況等について、聞き取り調査を行いました。その結果の概要は以下のとおりです。

今後の、シンガポールへの食品輸出の際の参考としてください。

ジェットロシンガポール事務所

- ・ 品目ごとに、特定の国から輸入している（肉：オーストラリア、野菜：マレーシア、果物：アメリカ、緑茶：日本など）
- ・ 外食中心の文化。RTE（すぐ食べられる）、RTH（温めると食べられる）の食品が人気。
- ・ 都市国家であることから、地方の概念がない。シンガポール全体が一つの都市（日本の地名も、北海道しか知られていない）
- ・ 輸出は容易。継続に努力が必要。周辺国のショーケース的役割。

日本食レストラン等経営者

A社

- ・ 食材の多くを日本から輸入している。牛は1頭買い。
- ・ 著名人がおいしいというと、爆発的に広がるのは日本と同じ。
- ・ 物流について、何社も付き合うと、優先順位を下げられてしまう。専門の代理店を持つのが望ましい。
- ・ 大葉は刺身のつまとして需要がある。小菊や穂じそも需要があるので、ビジネスチャンスになる。
- ・ ぎんなんは有望。殻つきで、中が青いと料理の見栄えが良い。

B社

- ・ 牛肉やサーモン等の人気が高い。
- ・ 大葉などは大阪の市場から、業者を経由して輸入している。そのほかの野菜はマレーシアから輸入。
- ・ お茶は以前、静岡産を使用していたが、原発事故の関係で、現在は、いろいろ試した結果、岐阜県産を使用。
- ・ 岩手からひとめぼれ等を輸入している。
- ・ 日本のしっかりした食品を使うコンセプトを今後、はっきりと打ち出していく予定。

百貨店

A百貨店

- ・ 日本食品は、生鮮から加工食品まで何でもある。
- ・ 売れ筋は、調味料（みそ、しょうゆ等）、いちご、モモ等。ラーメンは豚骨の次はみそ味が人気。
- ・ 北海道フェア、九州フェア、四国フェアは定番化。
- ・ フェアの期間は最低10日。通常2週間。週末を2回入れないと、消費者の反応は分からない。
- ・ 日本から人が来て店頭で販売することをお願いしている。その熱意がないと、こちらも協力できない。

B百貨店

- ・ 自治体のフェアは、北海道や和歌山、鳥取県が実施。食品輸入業者が、出展者や商品を集め、内容を打ち合わせしながら実施。
- ・ フェアは2週間単位が原則。出展者が来ることは義務ではないが、売るためには必要条件。
- ・ 日本のフェアは、1月、4月は北海道フェア、5月は日本のお菓子の祭典、

7月北海道フェア、10月九州フェア、北海道フェア、11月和歌山フェア、鳥取フェア、ジャパンフェア。12月はクリスマス、1月は春節商戦。

- ・ 売れ筋は野菜や果物。洋菓子も良く売れる。実演系も良い。

C百貨店

- ・ 輸入に関しては、日本にある本社が海上事業本部を持っており、貿易業務を行っているので、ほとんどそこから輸入している
- ・ 野菜や果物は、本社が日本で調達。当然、愛知県産のものも含まれている。
- ・ フェアは最低10日、2週間が基本だが、現地の売り子をつけてくれれば、日本人の滞在期間は相談に応じる。10から20社程度の場所がある。
- ・ 出展商品はこちらで選ぶが、買い取りをする。その後、棚にも入れる。

現地食品輸入事業者

- ・ 日本は中小企業が多いため、こちらの要求するロットにこたえられない。
- ・ 国内向け価格と輸出向け価格を分けるべきだ。品質が良くても、価格で他国に負けてしまう。輸送費や手数料が高すぎる。
- ・ 八丁味噌はこちらのシェフに料理提案し、デモを行い、マーケットを広げてはどうか。
- ・ 輸出に取り組む場合は、外国語の話せる人材を確保し、輸出ルートを考え、輸出に耐えられる量を生産できるかよく考えてほしい。

よりよい出荷を目指して～いちじく目揃会を開催！！～

尾張果樹振興会（事務局：尾張農林農政課内）は、平成25年8月5日（月）に、北名古屋市にあるJAあいち経済連尾張センターにおいて、JAあいち経済連と共催で「尾張いちじく統一目揃会（以下、「目揃会」という。）」を開催しました。

目揃会には、尾張果樹振興会の会員であるJA西春日井、JAあいち尾東、JA愛知北、JA尾張中央、農事組合法人^ザら^ウ及び市場関係者等51名が出席し、各産地の作柄状況、出荷規格の確認と目揃え、今後の栽培管理について協議しました。

各産地がいちじくの作柄を報告

本年産の露地いちじくは、例年より5～7日生育が早いこと、アザミウマ類の発生が多い傾向にあることなどを各会員が報告しました。また、JAあいち経済連からは、県内他産地の情勢について報告があり、生産者は熱心に耳を傾けていました。



多くの生産者が参加

尾張のいちじくに市場も期待

卸売市場担当者からは、市場情勢として、果樹全体に生産が前進していること、少雨の影響で小玉傾向ではあるが食味がいいことなどの報告がありました。さらに、適期収穫を目指しておいしいいちじくの出荷をお願いしたい、産地の情報をより早くつかみ、いい販売につなげていきたい、など尾張地域のいちじくに期待をこめた言葉がありました。



目揃えの様子

出荷規格を全員で再確認！

卸売市場のいちじく担当者から色、形、大きさ、傷等による等階級が説明された後、参加者全員による目揃えが行われ、規格の詳細について活発な意見交換がなされました。特に今年は、果頂部の割れについて昨年までとは規格が変更したことから、参加者は熱心に質問をしていました。

最後に、農業改良普及課稲沢駐在室の果樹担当者から、今後の栽培管理としてかん水管理や病害虫防除、また高温時の農作業安全と健康管理について説明がありました。今年は梅雨が短く高温が続いていることから、かん水管理については参加者も特に関心が高く、活発な質疑応答が行われました。その他にも、病害虫防除について参加者からは多くの質問があり、栽培技術向上に対して関心の高さがうかがえました。

農政課では今後も尾張果樹振興会と連携し、栽培技術の研修、良質ないちじくの出荷検討等により尾張地域のいちじく生産振興に努めていきます。

第8回アグリフードEXPO 東京2013が開催されました

去る8月22日、23日の2日間にわたり、東京ビッグサイトにおきまして「第8回アグリフードEXPO東京2013」が開催されましたので紹介します。

開催概要

この展示会は、魅力ある農作物を育んだ全国の農業者と、それら農作物を活用される中食・外食をはじめ、流通、食品製造などの食品関連企業の方々との新たな発展の機会を提供する、「農」と「食」をつなぐ場としての役割を果たしています。国産農産物の展示商談会としては国内最大規模の催しで、全国各地で国産ブランドを担い、魅力ある農作物づくりに取り組んでいる農業経営者や農業者の生産した農産物を活用してこだわりの食品を製造している食品企業などにより、約3000品目が紹介されておりました。出展業者数も第1回目の300社弱から今年は約648社と倍増し、来場者数についても年々増加しているとのことで、国産農産物への関心の高さが伺える結果となっています。

特に、最近の特徴としては、6次産業化に取り組む農業者の出展が目立っているように感じました。農業者が製造した加工食品（米粉製品、ジュース、乳製品、肉加工品）などのブースが多くなった印象を受けました。

「開催概要」

開催日時	2013年8月22日～23日
会場	東京ビッグサイト西1ホール
主催	日本政策金融公庫
後援 協賛	財務省、農林水産省ほか (独)日本貿易振興機構、全国農業協同組合連 合会ほか

商談コーナー

全体の出店ブースの脇に広いスペースで、国内商談中心の「日本政策金融公庫特別商談コーナー」と、海外商談中心の「ジェットロ食品輸出商談コーナー」が設置されており、出店者と来場者または主催者等は招聘した国内外のバイヤーとの商談を活発に行っていました。特に今年の商談会ではジェットロによる海外からの招聘バイヤーの数が多かった印象を受けました。

特設コーナー

特設コーナーとして、「東日本大震災支援コーナー」が設置されていました。大震災が

ら2年余りが経過した中、徐々にではありますが、農業分野でも明るい話題も出てきています。一方で、未だ、原発問題の影響等で、商品が思うように販売できない、観光客が減少して売上げが戻らない等多くの課題が残っていることを踏まえ、それらを乗り越え、力強く復興に立ち向かう、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の各県がそれぞれの農産品、加工食品などのPRを積極的に行っていました。

出展者によるプレゼンテーション

同時開催イベントとして、イベント会場内特設ステージにおきまして、「出展者プレゼンテーション」～青空応援隊より、日本のおいしさ、届けます！～と題して行われました。

これは、俳優の永島敏行氏が率いる青空応援隊が、多くの出展製品の中から選りすぐった品々を出展者の熱い思いを交えて紹介するという企画で、出展ブースのやり取りだけでは伝わりきれない商品の魅力や出展者の思いが伝わるものでした。参加した出展者は、「北海道ホエイ豚協議会」をはじめ6団体で、積極的にPRを行っていました。

< 出展者プレゼンテーション >

北海道ホエイ豚協議会（ホエイ豚：北海道）
宮城県大崎市（米、野菜、加工品：宮城）
（有）古代米浦部農園（彩穀：群馬）
日本アドバンストあくり（株）（アイスプラント：滋賀）
（株）滋賀商店（丹波黒黒豆煮豆：愛媛）
（株）海連（さつまいもパウダー：鹿児島）

愛知県からの出展

本県からも、田原市の（株）安田商店（ベビーリーフ等農産品販売）をはじめ、食品加工業者等、全部で8社の出展がありました。

今後、さらに国内外を問わない様々なマッチングの機会が増えることが予想されますので、このような動きに注視してまいります。



愛知県から出展の（株）「安田商店」安田専務

< 愛知県からの出展業者 >

（株）あいち研醸社（冷凍国産ゆば） （株）EM生活（EM農産物）
小笠原製粉（株）（キリンラーメン） 甘強酒造（株）（甘酒、粕漬の素など）
小島食品製造（株）（香味オイル） 小林クリエイト（株）（レタス、ツブリナ）
（株）まるや八丁味噌（三河産大豆の八丁味噌ほか） （株）安田商店（ベビーリーフほか）

新規需要米の取組動向について

■ 新規需要米とは

新規需用米とは、表 1 の用途のために生産されるものを指します。

これらのうち、飼料用米・米粉用米・WCS 用稲については、食料自給率の向上に大きく寄与することから、農業者戸別所得補償制度（平成 25 年度から経営所得安定対策に名称変更）で 10a 当たり 8 万円の助成措置がされています。また、飼料用米・米粉用米については、既存の水稻生産に係る機械設備が使用でき、新たな設備投資の必要がないこと、麦・大豆等の転作作物の作付けが困難な排水不良田でも作付けが可能であること等の利点があることから、近年、転作作物としての取組が広がっています。

表 1 新規需要米の用途

飼料用米	
米粉用米	
稲発酵粗飼料（WCS）用稲	
バイオエタノール用米	
輸出用米	
青刈り稲・わら専用稲	
主食用以外の用途のための種子	
その他その用途が主食用米の需給に影響を及ぼさないもの	

は農業者戸別所得補償制度（現在は経営所得安定対策）の助成対象

■ 全国の取組状況

飼料用米・米粉用米・WCS 用稲の作付面積は、農業者戸別所得補償制度の助成が始まった平成 22 年度から急激に拡大し、平成 24 年度は横ばいとなっております（図 1）。

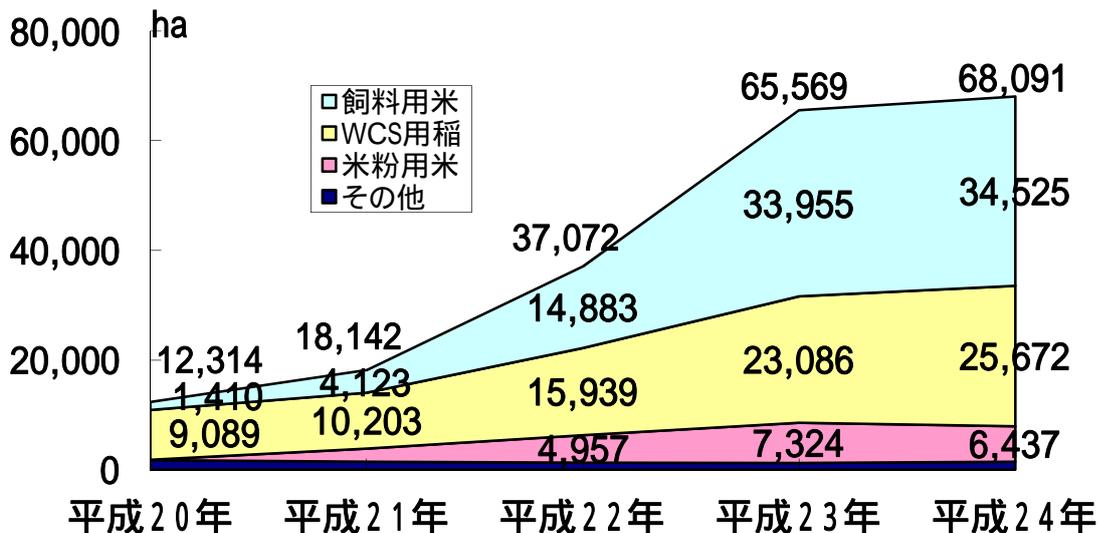


図 1 新規需要米の作付面積の推移（平成 24 年 10 月 15 日現在）

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」、作付面積は認定面積

また、平成24年度の農業者戸別所得補償制度の支払実績における飼料用米・米粉用米・WCS用稲等の合計支払面積は66,098haとなり、平成22年度の約1.9倍となりました(表2)。

表2 全国における水田活用の所得補償交付金の取組状況(支払面積)

	飼料用米	WCS用稲	米粉用米	合計
22年度	14,773 ha	15,878 ha	4,920 ha	35,571 ha
23年度	33,758 ha	22,856 ha	7,263 ha	63,877 ha
24年度	34,316 ha	25,410 ha	6,372 ha	66,098 ha
増加率 (24/22)	232 %	160 %	130 %	186 %

注：平成22年度は戸別所得補償モデル対策の水田利活用自給力向上事業の支払面積
農業者戸別所得補償制度の支払面積は、新規需要米の作付面積と必ずしも一致しない

■ 愛知県の取組状況

本県においても、新規需要米の取組は大幅に拡大しており、平成24年度の農業者戸別所得補償制度の支払実績では、飼料用米・米粉用米・WCS用稲の支払合計面積が、平成22年度に比べ約3.5倍となりました(表3)。特に飼料用米については、尾張地域と東三河地域の麦・大豆の不適作地を中心にその取組が急増し、作付増加率は全国の増加率を上回っています。

このように、新たな転作作物として新規需要米の作付けが急増したことにより、本県における主食用米の過剰作付面積*は、戸別所得補償モデル対策が始まる前の平成21年度の2,384haから、平成24年度の999haまで減少しました。

* 国から提供された生産数量目標面積を上回って作付けされた面積。

表3 愛知県における水田活用の所得補償交付金の取組状況(支払面積)

	飼料用米	WCS用稲	米粉用米	合計
22年度	203 ha	79 ha	29 ha	311 ha
23年度	729 ha	137 ha	35 ha	901 ha
24年度	890 ha	147 ha	41 ha	1,078 ha
増加率 (24/22)	438 %	186 %	141 %	347 %

注：平成22年度は戸別所得補償モデル対策の水田利活用自給力向上事業の支払面積

花の楽しみ方

花の消費量は年々減少し、1世帯当たりの切り花に対する支出金額は、2000年には11,570円だったものが、2011年には、9,427円と減少し、購入回数も10.3回から9.1回に減少しています。この10年間に言えることは、景気の悪化、低迷とすることで理由が立ちます。しかし、減った理由はこれだけではないのではと考え今回は「花の楽しみ方」をテーマに3つの事例を紹介したいと思います。

	購入回数(回)	支出金額(円)
2000年	10.3	11,570
2005年	9.8	10,602
2010年	9.6	10,113
2011年	9.1	9,427

出典：総務省統計局

花の楽しみ方とは

いわゆる花の楽しみ方は、伝統的な生け花のほか、フラワーアレンジメント、ガーデニング、リース、押し花などいろいろあります。多くの方がこうした趣味を通じて花を楽しんでいます。ただし、これはそうした趣味をもった限られた人たちにしか花が利用されていないような気がしてなりません。もっと多くの人に花を意識してもらおう、花を楽しんでもらうことが必要な気がします。

人が集まるイベントで花を配る

多く人が集まる場所で見ず知らずの人にも花を渡せば仲良くなれる。そういったことに気がついて積極的に取り組んでいる人たちがいます。彼らは彼らなりの方法で場を楽しむ手段として花を活用しています。特に花の種類や品質は、こういった場の花は雰囲気ですから、決して立派である必要はありません。花には人の気持ちを優しくする、やすらぎを与える効果がありますから、積極的にこうしたことを活用できる事がいいですね。



花があるとみんな盛り上がります

花を持っていくとサービスがある飲食店

花を持っていくとドリンク1杯のサービスがあるような飲食店もあります。店の方は皆さんが花を持ってきていただければ店内の雰囲気もよりリラックスしたものになる。そのため、この取組を行っているとか。みなさんが持って来られる花はどんな花でもOKで、一輪からの手作り感が店の雰囲気をアットホームなものにして花の効果が倍増しています。



花があるとよりリラックスした雰囲気に

花屋との融合

最後は、花に囲まれてお酒を飲める場所です。カフェと花屋が一緒になった店、バーと花屋が一緒になった店。店舗の形態はともかく、こうすることによって、花に興味がなかった人も、ついでに買って行こうかなという気になってしまいます。都内にある花屋とバーの融合した店では、仕事帰りのサラリーマンが一杯飲んで家に花を買って帰る人が多いみたいです。これで家庭も円満になり、とても気持ちがいいそうです。



花屋で一杯、雰囲気もばっちりです

以上3つの事例を挙げましたが、花は楽しいところにあるとより楽しい雰囲気になりリラックスできます。花の消費拡大は非常に難しく景気にも左右されがちと思われますが、こうした場づくりが花の消費拡大の一步に出来たらいいのではないかと思います。

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋市中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
24年実績	588	587 (99%)	718	717	福岡 (0.1%)
25見通し	600	-	650	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>産地はほぼ愛知。前年も雨や台風による被害が少なく豊作だったが、今年も同傾向で生育は順調。価格は低価格で推移している。 例年より露地ものは1週間～10日程度前倒しの傾向。</p>			<p>和歌山、栃木、茨城が増産傾向にある。 愛知産は早めに出荷が始まる榊井ドーフィン、サマーレッドが中心であるが、新しく作り始める人はほとんどサマーレッドを選択しており、品種の移行が始まっている。 愛知はもともと玉は大きめであるが、近年は特に大玉のものが人気があるため、1パック3、4玉で出荷をしている。</p>		

東京都中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
24年実績	37	24 (67%)	1,481	1,409	静岡 (8%) 埼玉 (7%) 茨城 (4%)
25年見通し	37	-	1,500	-	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産の入荷は、今月から本格化する。ここまで、気象災害等もなく、干ばつ傾向ではあるが作柄的には良好で、実の成りも良く順調な出荷が期待できる。他産地も中旬以降徐々に入荷がはじまるが、量的には少ない。 入荷量は前年並を見込み、価格も前年並の見込み。</p>			<p>この時期に出荷されるぎんなんは、秋の感じさせる商材として業務筋を中心に人気が高い。まだ、量的に少ないので量販店向けは10月に入ってから本格化する。 この時期は、まだ、高温、多湿の日が多く、出荷の際はカビ等による品質低下がおきやすいので、細心の注意をはらっていただき、安定出荷をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し

名古屋市中央卸売市場

8月20日 現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	20年	38,204	200	199	207	192	北海道 42%
	21年	36,865	195	212	202	174	長野 21%
	22年	33,487	237	230	237	242	群馬 11%
	23年	33,747	223	217	238	225	青森 4%
	24年	35,362	175	175	180	172	
	5ヵ年平均	35,533	206	-	-	-	
	25年見通し	33,600	209	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は北海道、長野中心で、他に群馬など。高温や干ばつの影響もあり、全体的に小玉傾向。今後も天候次第で出荷量は変わってくる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。							
だいこん	20年	2,311	101	75	119	111	北海道 61%
	21年	2,557	95	115	99	75	青森 23%
	22年	1,909	113	107	127	107	岐阜 13%
	23年	2,033	122	107	132	135	長野 2%
	24年	2,194	86	87	90	89	
	5ヵ年平均	2,201	103	98	112	102	
	25年見通し	2,000	100	100	100	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は北海道、青森中心。両産地とも7月の降雨、8月の高温の影響を受け、入荷量は少なめとなる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	20年	2,966	120	121	122	115	北海道 99%
	21年	2,828	121	132	125	107	中国 1%
	22年	2,282	169	181	175	175	青森 0%
	23年	2,458	119	128	132	127	愛知 0%
	24年	2,411	104	103	120	92	
	5ヵ年平均	2,589	126	132	134	122	
	25年見通し	2,400	110	120	110	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地はほぼ北海道。生育期である6月から9月にかけて続くと思われる高温、干ばつのため生育が悪く、Mサイズ中心。小玉傾向が強く、9月に入ると学校給食が始まるが、2L、Lが不足する見込み。 入荷量は前年並みで、価格は前年をやや上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

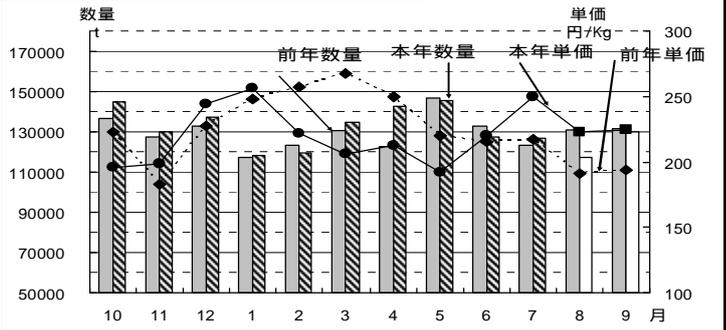
8月23日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	20年	139,146	215	220	220	205	北海道 31%
	21年	138,503	206	228	208	183	長野 14%
	22年	125,539	259	246	262	269	群馬 14%
	23年	128,293	244	236	248	249	青森 7%
	24年	131,883	194	183	199	202	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	132,673	223	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	130,000	225	-	-	-	

**産地状況と
入荷量及び卸売価格の概況見通し**

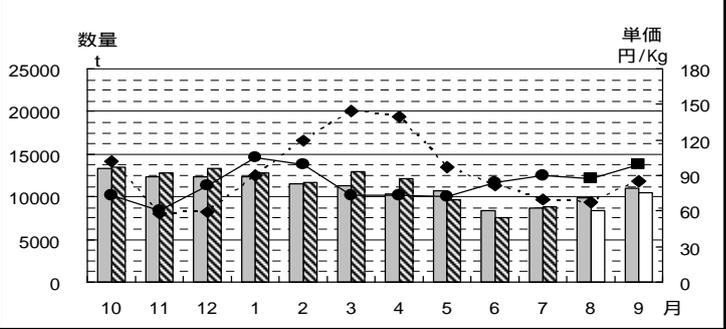
北海道から土物類や根菜類、関東高冷地からは葉茎菜類や果菜類が入荷する。これまでの高温、干ばつ傾向の影響で9月前半までは全体的に少なめの入荷が予想され、後半は順調な入荷となる。
 全体の入荷量は前年並みで、価格は安値の前年をかなり上回る見込み。



だいこん	20年	12,207	100	77	114	110	北海道 64%
	21年	12,912	90	114	89	70	青森 29%
	22年	11,589	109	103	121	106	岩手 5%
	23年	11,320	114	96	117	131	(愛知産比率 -%)
	24年	11,091	85	83	85	88	
	5ヵ年平均	11,824	99	95	105	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	10,500	100	100	100	100	

**産地状況と
入荷量及び卸売価格の概況見通し**

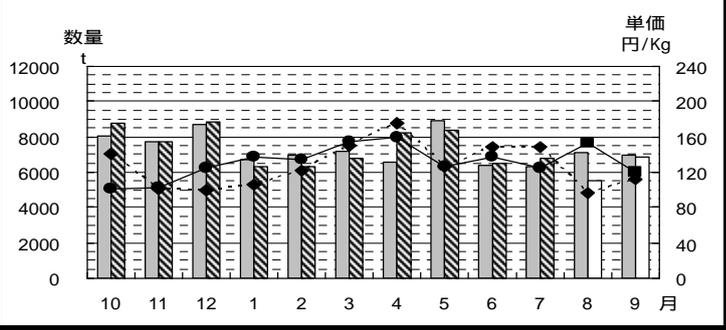
北海道と東北産地中心の入荷となる。北海道は地域により作況にバラツキがありイタミ等の発生も散見される。青森は、現状少ないが9月からは順調な出荷が見込まれる。
 全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。



にんじん	20年	7,425	125	129	126	120	北海道 96%
	21年	7,345	135	141	137	126	中国 3%
	22年	7,082	174	179	175	170	青森 1%
	23年	7,374	126	126	124	129	(愛知産比率 0%)
	24年	6,933	112	106	118	111	
	5ヵ年平均	7,232	134	136	136	131	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	6,900	120	120	120	120	

**産地状況と
入荷量及び卸売価格の概況見通し**

北海道からの入荷が中心となる。北海道内の地域によって作柄状況がまちまちで局所的な豪雨の影響で品質低下がみられるところもある。全体として少なかった昨年並の出荷量となる見込み。
 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。



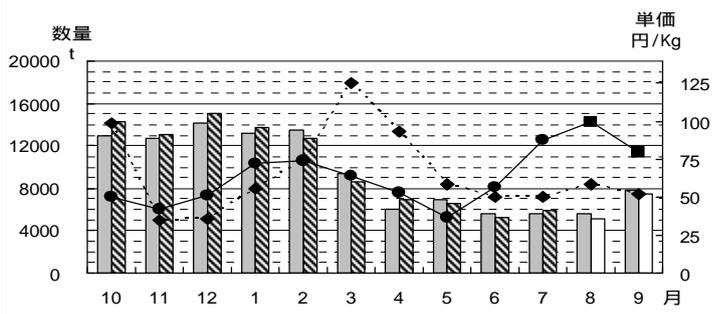
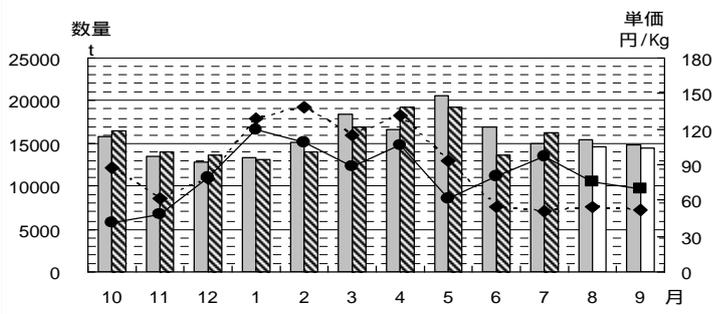
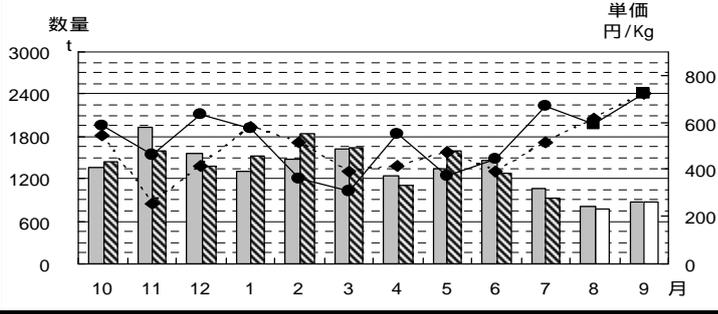
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうきさい	20年	3,058	86	83	92	85	長野 93% 北海道 6% 岐阜 0%
	21年	2,555	95	94	107	88	
	22年	2,322	103	108	93	106	
	23年	2,339	107	89	128	122	
	24年	2,489	52	54	57	55	
	5ヵ年平均	2,553	88	85	95	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
25年見通し	2,350	95	95	95	95		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は長野中心。作付け面積は減少している。干ばつ傾向のため、天候の回復次第であるが、回復しない場合、入荷量は減少しそう。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
キャベツ	20年	4,391	70	62	79	70	群馬 69% 長野 17% 北海道 12%
	21年	3,880	93	94	95	89	
	22年	3,889	91	83	92	97	
	23年	4,396	85	73	85	101	
	24年	4,873	55	54	59	55	
	5ヵ年平均	4,286	78	72	81	81	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
25年見通し	4,400	80	70	80	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は群馬中心。ほか長野、北海道から入荷。干ばつの影響で玉伸びが悪く、小玉傾向。昨年のような豊作はなく、例年通りの入荷となりそう。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	20年	250	738	713	956	595	岐阜 80% 愛知 10% 長野 6% 群馬 1%
	21年	315	587	606	664	514	
	22年	159	941	981	1,083	827	
	23年	191	800	744	969	746	
	24年	192	807	775	826	823	
	5ヵ年平均	221	747	737	871	671	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
25年見通し	190	820	820	820	820		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は岐阜中心で、一部愛知、長野。9月上旬から中旬にかけて、入荷量は少なくなる見込み。下旬には愛知のハウスものが始まる。 入荷量・価格とも前年並みの見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうきさい	20年	8,197	77	72	82	78	長野 91%
	21年	8,465	86	90	89	81	群馬 5%
	22年	8,773	99	107	83	106	北海道 4%
	23年	8,101	107	82	116	121	
	24年	7,816	52	48	53	55	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	8,270	85	80	85	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	7,500	80	80	80	80	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			 <p>数量 単価 円/Kg</p>		
		<p>長野からの入荷が中心となる。長野は、高温、干ばつ傾向で結球は遅れているが回復傾向で、上旬は少なめで、このままの天候が続けば9月中旬以降は順調な出荷が見込まれる。</p> <p>全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は安値で推移した前年を大幅に上回る見込み。</p>					
キャベツ	20年	15,616	67	58	74	80	群馬 78%
	21年	16,271	91	101	91	81	岩手 13%
	22年	15,664	92	81	96	99	長野 4%
	23年	15,362	85	71	84	103	北海道 4%
	24年	14,759	52	49	55	52	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	15,534	78	72	80	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	14,500	70	70	70	70	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			 <p>数量 単価 円/Kg</p>		
		<p>群馬からの入荷が中心になる。群馬はこれまで小玉傾向できていたが回復してきている。暑さの影響でイタミの発生も懸念される。岩手は天候不順で少なめの出荷が続く。</p> <p>入荷量は前年並みで、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	20年	1,126	664	793	763	483	群馬 32%
	21年	1,437	495	537	556	417	栃木 25%
	22年	800	832	822	1,009	735	茨城 14%
	23年	879	738	759	765	690	岩手 8%
	24年	860	724	759	714	699	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	1,020	666	734	761	605	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	860	720	720	720	720	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			 <p>数量 単価 円/Kg</p>		
		<p>関東高冷地と岩手からの入荷となる。各産地とも天候変動はそれぞれあるものの、雨除け栽培主体のため出荷量への影響は少なく、安定的な出荷が見込まれる。</p> <p>全体の入荷量は少なかった前年並で、価格も前年並の見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬	(愛知産比率)	
ね	20年	1,166	372	387	357	374	北海道 44%
	21年	1,125	317	332	325	293	長野 14%
	22年	981	450	394	445	497	愛知 10%
	23年	937	366	353	357	397	中国 7%
	24年	932	336	321	350	343	
ぎ	5ヵ年平均	1,028	367	358	366	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	950	350	350	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は北海道、長野、愛知、富山。愛知は7月、8月の天候の影響で数は少ない。白ねぎの産地である富山、鳥取は8月下旬以降から順調な出荷が見込まれる。入荷量は前年並みで、価格は前年をやや上回る見込み。							
レ	20年	1,873	228	227	263	189	長野 97%
	21年	2,168	131	155	148	94	愛知 3%
	22年	2,006	190	192	167	206	茨城 0%
	23年	1,627	278	315	341	237	岩手 0%
	24年	2,265	122	133	136	117	
ス	5ヵ年平均	1,988	183	197	202	163	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	1,900	180	180	180	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地はほぼ長野。高温、干ばつの影響により玉伸びが悪い。ただ今後の天候次第では数量は増える可能性もある。入荷量は多かった前年を大幅に下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。							
き	20年	1,690	252	279	245	230	長野 34%
	21年	1,600	204	277	207	145	群馬 20%
	22年	2,316	221	166	233	276	山梨 17%
	23年	1,348	365	362	340	424	北海道 16%
	24年	1,461	214	214	198	251	
う	5ヵ年平均	1,683	246	250	242	261	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	1,450	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は長野、群馬中心でほか北海道、山梨から入荷。夏秋ものは9月上旬をピークに減少するが、作型の変わり目の天候次第で入荷量は安定すると思われる。入荷量は前年並みで、価格は前年を大幅に上回る見込み。							

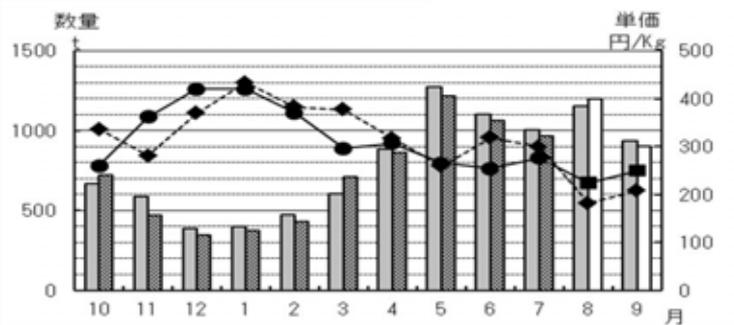
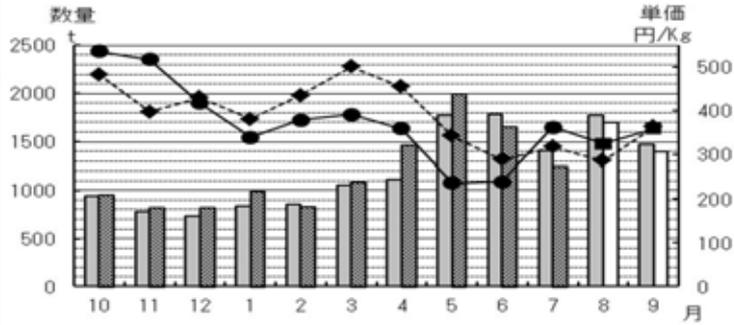
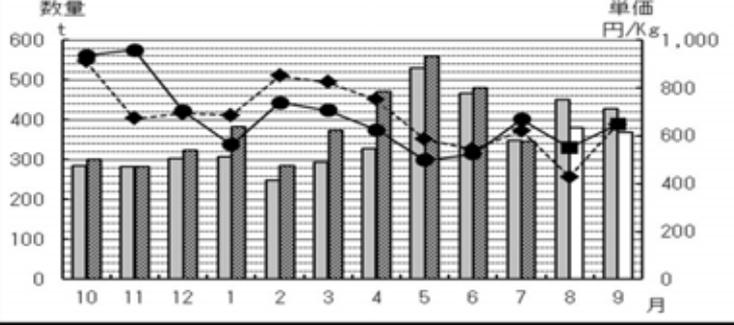
東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	20年	5,495	251	262	251	238	青森 32%
	21年	5,114	215	243	207	196	北海道 16%
	22年	4,305	401	314	368	504	秋田 12%
	23年	4,360	316	241	310	399	茨城 9%
	24年	4,352	280	256	276	310	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	4,725	288	263	282	329	
ぎ	25年見通し	4,400	280	280	280	280	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		青森、北海道、秋田、茨城からの入荷となる。各産地とも生育初期の暑さ、降雨等の影響で作業遅れがあり、2週間程度も生育遅れがみられる。病害は少ない。全体の入荷量は今後の天候次第ではあるが、少なかった前年並を見込み、価格も前年並の見込み。					
し た ス	20年	7,678	234	245	270	182	長野 83%
	21年	9,105	126	151	143	91	群馬 10%
	22年	8,236	191	191	173	206	茨城 3%
	23年	7,253	302	353	338	218	岩手 2%
	24年	9,554	116	120	123	104	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	8,365	187	212	209	160	
ス	25年見通し	8,000	155	160	155	150	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		長野を中心に、群馬から入荷する。長野は暑さと干ばつで小玉傾向の推移。9月上旬までは少なめの出荷となり中旬以降、回復してくる見込み。 全体として入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回るが平年比安の見込み。					
き ゆ う り	20年	8,352	223	255	201	212	福島 30%
	21年	8,802	177	257	174	118	埼玉 11%
	22年	7,272	295	268	338	291	群馬 10%
	23年	7,388	321	314	277	401	茨城 8%
	24年	8,515	174	170	149	221	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	8,066	234	252	228	249	
り	25年見通し	8,000	230	240	230	220	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		東北産地から関東産地への移行時期となる。福島は生育初期の干ばつ、その後の低温長雨の影響で樹勢低下もあり今後の出荷量に影響が出ることが予想される。関東産は概ね順調に推移している。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値であった前年を大幅に上回る見込み。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	20年	900	252	287	238	228	山梨 24% 愛知 24% 徳島 14% 群馬 10%
	21年	1,051	218	236	238	188	
	22年	853	294	228	331	337	
	23年	732	313	274	329	365	
	24年	935	208	192	207	237	
	5ヵ年平均	894	253	242	264	264	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
25年見通し	900	250	230	250	280		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は山梨、愛知、徳島中心。前年よりもゆるやかな出荷となりそう。9月中下旬は山梨、徳島の出荷は減少する見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。							
ト マ ト	20年	1,748	299	349	261	296	岐阜 47% 北海道 20% 茨城 7% 千葉 6%
	21年	1,408	396	458	401	339	
	22年	1,074	548	518	517	603	
	23年	1,439	387	402	362	405	
	24年	1,472	364	290	421	413	
	5ヵ年平均	1,428	387	394	380	397	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
25年見通し	1,400	360	350	350	370		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は岐阜中心。ほかに北海道、茨城から入荷。岐阜は生育良好だが、東北や北海道は天候不順により出荷量が減少する見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。							
三 二 ト マ ト	20年	345	600	743	642	434	北海道 78% 茨城 8% 長野 8%
	21年	339	708	693	791	649	
	22年	272	1,028	923	1,083	1,091	
	23年	373	736	731	713	774	
	24年	429	649	462	717	847	
	5ヵ年平均	352	728	690	772	750	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
25年見通し	370	650	600	650	700		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は北海道中心。着果良好で順調な出荷が見込まれる。入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年並みの見込み。							

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	20年	4,995	220	232	201	230	栃木 32%
	21年	4,706	212	241	233	171	群馬 24%
	22年	3,878	310	245	368	337	茨城 21%
	23年	3,849	304	276	283	386	埼玉 7%
	24年	4,419	207	185	205	252	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	4,369	246	236	258	275	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	4,200	250	230	260	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも、高温、干ばつ傾向で推移してきたが順調な出荷が続いている。今後、気温低下に伴い徐々に少なくなってくる。西南暖地も下旬には始まる。</p> <p>全体として、入荷量は多かった前年をやや下回る。価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ト マ ト	20年	9,368	265	312	227	260	青森 19%
	21年	7,792	355	415	358	299	千葉 18%
	22年	6,388	517	485	480	596	福島 16%
	23年	8,202	356	373	322	378	茨城 12%
	24年	8,898	328	253	387	359	(愛知産比率 1%)
	5ヵ年平均	8,130	354	368	355	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	8,300	320	310	320	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北と関東産地からの入荷が中心となる。東北産は、7月の曇雨天の影響で花着きが悪く、少なめの出荷が続く。北海道も同様の傾向。関東産は各産地とも概ねな出荷が見込まれる。</p> <p>全体の入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに下回る。</p>					
ミ ニ ト マ ト	20年	1,345	531	671	518	423	北海道 27%
	21年	1,252	643	678	720	548	茨城 22%
	22年	1,010	939	899	999	925	千葉 11%
	23年	1,270	686	713	655	687	青森 9%
	24年	1,495	634	462	670	784	(愛知産比率 3%)
	5ヵ年平均	1,274	673	685	712	673	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	1,300	630	650	630	610	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北産地と関東産地からの入荷が中心となる。北海道はお盆以降天候にも恵まれ順調な出荷が見込まれる。茨城も生育は概ね順調。入荷量は多かった前年をかなり下回るものの平年並以上。価格は前年並が見込まれる。</p>					

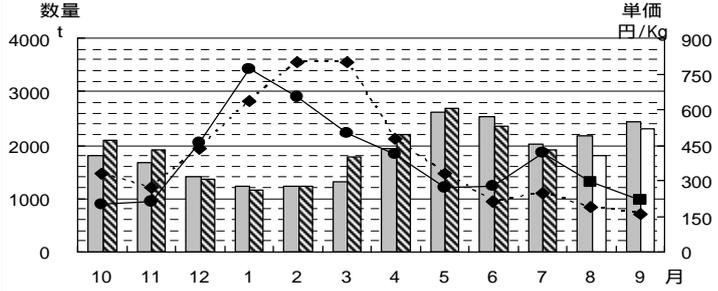
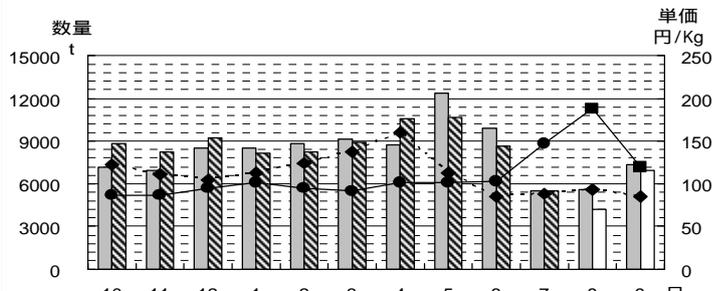
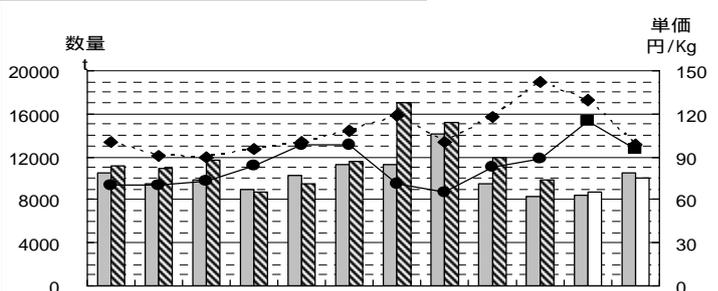
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	20年	625	240	276	249	197	岩手 39% 北海道 31% 茨城 18%
	21年	542	262	308	274	211	
	22年	495	402	361	413	432	
	23年	485	304	321	362	334	
	24年	475	218	274	259	234	
マン	5カ年平均	524	283	307	308	276	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	485	250	250	250	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は岩手、北海道など北の産地が中心。お盆前から入荷量が増加しているが、北海道は雨が多く、気温も低いので今後の生育が心配される。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>					
ばいしょ	20年	3,040	90	95	91	83	北海道 90% 青森 10% 愛知 0%
	21年	2,937	102	122	106	85	
	22年	2,601	140	141	146	135	
	23年	2,674	117	119	123	110	
	24年	2,347	71	83	74	67	
いしょ	5カ年平均	2,720	104	112	108	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	2,700	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は北海道中心。青森からは男爵、メイクインの残量が出てくる。北海道の小玉傾向は変わらず、今後の肥大化に期待。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	20年	4,804	80	63	65	64	北海道 98% 中国 1% 兵庫 1% アメリカ 0%
	21年	4,765	99	112	104	84	
	22年	4,985	101	98	95	108	
	23年	4,292	88	79	95	98	
	24年	4,879	86	104	91	80	
ねぎ	5カ年平均	4,745	91	92	90	87	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	4,500	85	85	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は北海道中心。天候不順により小玉傾向である。小玉は安値、大玉は高値。小玉は加工品にも使いづらく、輸入品ヘシフトするのは。今後は価格にも影響がでてきそう。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並みの見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	20年	2,479	200	240	190	169	茨城 38%
	21年	2,285	218	255	221	178	岩手 35%
	22年	2,071	360	310	356	420	福島 15%
	23年	2,179	240	229	269	240	青森 8%
	24年	2,421	157	169	153	150	(愛知産比率 -%)
マン	5ヵ年平均	2,287	231	241	238	231	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	2,300	220	200	220	240	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>茨城と東北産地からの入荷が中心となる。各産地とも暑さ等、天候の影響を受けている。現況、夏秋ピーマンがピークを迎え価格安で推移しているが、秋ピーマンの出荷量少なめが予想される。</p> <p>全体として入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	20年	7,601	106	108	108	101	北海道 93%
	21年	7,773	120	123	119	118	青森 4%
	22年	7,365	151	147	153	154	茨城 1%
	23年	7,272	124	124	125	123	
	24年	7,401	85	88	85	81	(愛知産比率 -%)
いしょ	5ヵ年平均	7,482	117	118	118	115	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	7,000	120	120	120	120	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>北海道からの入荷が中心となる。早出しのものについては降雨の影響で収穫遅れがある。上旬の出荷は少なめで、徐々に増量してくる見込み。</p> <p>全体として入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	20年	11,478	84	84	86	82	北海道 93%
	21年	9,216	116	124	115	109	中国 5%
	22年	9,838	113	103	111	125	兵庫 1%
	23年	10,821	94	84	97	100	佐賀 1%
	24年	10,558	98	108	96	87	(愛知産比率 -%)
ねぎ	5ヵ年平均	10,382	100	93	96	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	10,000	95	95	95	95	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>北海道中心の入荷となる。産地にもよるが全体的に干ばつ傾向で9月出荷のものは大玉果が少なく小玉傾向。徐々に増量してくるものの少なめの出荷となる。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果 実 計	20年	13,757	280	273	297	268	長野 33%
	21年	12,727	285	310	283	267	フィリピン 17%
	22年	10,656	369	384	368	357	愛知 6%
	23年	10,927	321	320	337	321	青森 6%
	24年	10,639	349	360	365	253	
	5ヵ年平均	11,741	317	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	10,600	330	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は長野、愛知、青森中心。天候次第ではあるが、出荷は全体的に前倒し傾向。入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。							
み か ん	20年	1,566	334	467	387	264	三重 34%
	21年	1,787	305	471	312	243	宮崎 16%
	22年	1,275	398	570	432	327	熊本 15%
	23年	1,200	357	504	399	296	佐賀 12%
	24年	1,201	316	535	355	253	
	5ヵ年平均	1,406	339	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	1,200	320	500	370	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
主な産地は三重、宮崎、熊本、佐賀。三重の出荷時期により、入荷量・単価とも左右されることになりそう。暑さと雨の少なさから、生理落果している。入荷量・価格とも前年並みの見込み。							
な し	20年	2,959	222	206	233	227	長野 72%
	21年	2,382	230	239	224	224	富山 8%
	22年	2,071	374	373	376	374	愛知 6%
	23年	2,507	270	269	266	278	新潟 6%
	24年	2,351	319	318	326	312	
	5ヵ年平均	2,454	278	275	280	278	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	2,300	320	320	320	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地の中心は長野。次いで新潟、愛知、富山。長野、新潟は昨年よりも前倒しの傾向。長野の豊水、南水は状態が悪く、入荷量が落ち込みそう。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並みの見込み。							

東京都中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果 実 計	20年	47,979	265	258	279	256	長野 11%
	21年	46,085	259	280	262	240	フィリピン 9%
	22年	37,515	362	372	363	352	福島 8%
	23年	39,788	294	283	304	297	栃木 8%
	24年	36,934	339	357	350	311	(愛知産比率 1%)
	5ヵ年平均	41,660	300	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	35,000	350	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>なし、りんご、みかん、ぶどうなどが入荷する。りんごは小玉傾向だが、着色・食味は良好。ぶどうは干ばつの影響もなく作柄良好。全国的にシャインマスカットの栽培面積が拡大し生産量は増加中。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
み か ん	20年	4,714	296	478	320	238	宮崎 48%
	21年	4,961	260	401	265	215	佐賀 16%
	22年	3,408	350	494	341	309	熊本 13%
	23年	3,211	330	570	333	276	愛媛 5%
	24年	3,497	276	529	283	210	(愛知産比率 1%)
	5ヵ年平均	3,958	298	485	305	246	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	3,400	290	480	290	230	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>ハウスものは前年より残量が多いものの、中旬には切り上がる。上旬から露地の「極早生」が九州から入荷するが少雨で食味がいいが小玉傾向。宮崎は出荷量は1割減少見込みでS中心。熊本は着果数多く1割増加見込み。入荷量は前年からわずかに減少し、価格は安い前年をやや上回る見込み。</p>					
な し	20年	14,772	198	194	207	190	栃木 27%
	21年	13,836	194	208	191	183	福島 19%
	22年	11,093	334	348	351	312	千葉 17%
	23年	13,196	224	209	235	229	茨城 17%
	24年	10,206	309	327	327	270	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	12,621	244	249	254	231	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	25年見通し	9,500	300	320	320	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島から「幸水」、栃木、茨城などから「豊水」中心に入荷する。関東産地を中心に春先の凍霜害の影響で昨年以上に出荷量は減少する見込み。茨城、栃木ともに生育はやや前進気味で肥大も良好である。入荷量は少なかった前年よりかなり下回り、価格は前年同様高いがやや下回る見込み。</p>					

切花・鉢花の9月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月21日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	20年	3,578	42	
		21年	3,199	49	
		22年	2,243	59	
		23年	2,142	57	
		24年	2,046	57	
	5ヶ年平均	2,642	51		
25年見通し	2,050	57			
概要	愛知、三重、長野等から入荷。白菊は品種が精の一世中心になり、品種特性から下位等級は少なく、色物は長野産の露地物が中心となるため、高温、早魃の影響から不安定な入荷で、彼岸に向けては品薄感がありそう。				
小 ぎ	実績	20年	3,109	24	
		21年	2,500	26	
		22年	2,248	42	
		23年	2,102	33	
		24年	2,198	35	
	5ヶ年平均	2,431	31		
25年見通し	2,300	35			
概要	愛知、長野、岩手、奈良より入荷。作付は例年並み以上となっており、9月に入ると増えてくる。高温早魃傾向で天候により出荷が不安定になりやすく、入荷の状況により相場展開が荒れることが心配される。				
カー ネー ション	実績	20年	1,182	43	
		21年	1,103	43	
		22年	1,311	39	
		23年	1,438	36	
		24年	1,186	37	
	5ヶ年平均	1,244	39		
25年見通し	1,200	39			
概要	長野、北海道を中心に入荷。今年はスタート時の遅れもなく、一番花も集中出荷とならず、大きな山がないダラダラとした出荷が続いている。9月も同様な傾向にあり、輸入物の減少もあって安定化価格で推移すると思われる。				
か す み	実績	20年	117	107	
		21年	87	137	
		22年	78	112	
		23年	91	96	
		24年	102	87	
	5ヶ年平均	95	107		
25年見通し	110	100			
概要	長野、福島、北海道から入荷。品種はアルタイル、パールスター等が中心となる。前半は業務中心の販売で入荷量次第では価格は安い、中旬以降は数量が減少し、プライダル、敬老などの需要で、一気に上昇となる。気温が高いため、品質に注意が必要となる。				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	20年	482	150	
		21年	405	158	
		22年	420	165	
		23年	422	180	
		24年	400	144	
	5ヶ年平均		426	159	
	25年見通し		420	150	
概要	新潟、岐阜、北海道、埼玉から入荷。オリエンタル系は中旬までは順調な入荷、彼岸以降は減少する。天候不順が続くため、品質に気を配る必要がある。LA、鉄砲も彼岸までは順調な入荷。ただ、高温の為、LAの3Lクラスは少なそう。価格は前半の業務中心の販売で中値安定。中旬はイベント(敬老、彼岸)により、下旬は数量減により価格は上昇すると思われる。				
洋 ら ん	実績	20年	503	70	
		21年	437	71	
		22年	549	68	
		23年	552	72	
		24年	565	61	
	5ヶ年平均		521	68	
	25年見通し		540	65	
概要	愛知、鹿児島、静岡と輸入物が入荷。厳しい暑さ続く中、品質に難もあり、単価的に厳しい状況にあるが、気温の低下とともに品質も向上し、動きもよくなると思われる。				
ば ら	実績	20年	1,030	63	
		21年	1,029	65	
		22年	909	73	
		23年	899	73	
		24年	887	64	
	5ヶ年平均		951	67	
	25年見通し		850	70	
概要	愛知、三重、岐阜、和歌山、長野等から入荷。株休めを行っていた産地も出荷が始まり、全産地がそろっての出荷となる。輸入品は前年より入荷が減る見込みで、総体的にはあまり多くない。業務需要の動きもよくなり、堅調な販売が見込まれる。				
枝 も の	実績	20年	1,917	39	
		21年	1,626	41	
		22年	1,997	32	
		23年	1,795	43	
		24年	1,608	41	
	5ヶ年平均		1,789	39	
	25年見通し		1,780	40	
概要	栽培物の柳類中心に季節感を持つ実物やお月見用のススキが入荷する。栽培物の花木は稽古需要の減少から軟調傾向、今年はお月見が早い為、ススキの単価は伸び悩むと思われる。山取り物のドウダンなどは猛暑が続けば高値基調となりそう。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ類	実績	20年	35,676	592	
		21年	32,109	560	
		22年	29,127	619	
		23年	27,999	704	
		24年	29,097	730	
	5ヶ年平均		30,802	637	
	25年見通し		29,000	690	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。中鉢中心となりそう。品目はユッカ、マッサン中心となりそう。昨年9月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知県(67.4%)、2位鹿児島県(13.7%)、3位沖縄県(10.7%)となっている。</p>				
オンシジウム	実績	20年	12,115	850	
		21年	7,898	812	
		22年	6,339	796	
		23年	6,000	750	
		24年	5,965	734	
	5ヶ年平均		7,663	799	
	25年見通し		5,500	727	
概要	<p>今年は不作で花上がりが良くないのと全体量の作付け減のため、入荷量は昨年より減少か。例年通り、花店でのロスが目立つ時期なので、花固めでの出荷をお願いしたい。昨年9月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知県(49.0%)、2位熊本県(14.6%)、3位長崎県(9.1%)となっている。</p>				
アンズリウム	実績	20年	18,144	849	
		21年	12,509	753	
		22年	10,409	925	
		23年	12,468	718	
		24年	12,576	759	
	5ヶ年平均		13,221	801	
	25年見通し		12,000	792	
概要	<p>入荷量は昨年比べ、各サイズともに減少か。特に残暑が心配のため、白・ピンク系は特に減少すると予想。昨年9月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知県(97.0%)、2位静岡県(1.5%)、3位岐阜県(1.3%)となっている。</p>				

単位：鉢、円/鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シャコバ	実績	20年	64,285	442	
		21年	58,511	370	
		22年	49,516	395	
		23年	45,961	392	
		24年	39,762	390	
	5ヶ年平均		51,607	400	
	25年見通し		37,000	378	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。さらに小鉢化傾向は顕著なため、平均単価は下がると予想される。</p> <p>昨年9月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位埼玉県（54.1%）、2位愛知県（41.5%）、3位茨城県（4.3%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	20年	57,565	147	
		21年	86,577	150	
		22年	81,102	149	
		23年	85,045	148	
		24年	35,883	147	
	5ヶ年平均		69,234	148	
	25年見通し		35,000	143	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。ガーデンシクラメンが中旬以降より徐々に増え始め、下旬には4号鉢の出荷も始まる。5号鉢は10月以降、昨年同様残暑の残る中旬までは価格は厳しく、下旬より引合いは強くなると予想。</p> <p>昨年9月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位長野県（48.6%）、2位愛知県（34.5%）、3位山梨県（5.5%）となっている。</p>				
カラーコエ	実績	20年	76,748	205	
		21年	78,366	191	
		22年	63,300	181	
		23年	65,686	182	
		24年	66,622	182	
	5ヶ年平均		70,144	189	
	25年見通し		60,000	183	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。お盆明け引合い強い見込み。敬老の日需要で、今年も安定した相場となる見込み。</p> <p>昨年9月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位埼玉県（54.1%）、2位岐阜県（36.2%）、3位茨城県（7.2%）となっている。</p>				

主要農林水産物の輸出入実績 (2013年)

1 輸入実績

品名	6月						6月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	54,844	79.1	5,743,951	97.2	105	122.9	402,754	79	47,137,583	103	117	130
トマト	700	134.9	250,635	159.7	358	118.5	3,294	141	1,272,849	161	386	114
たまねぎ	25,806	77.1	1,245,981	106.8	48	138.5	123,414	66	8,570,625	129	69	195
にんにく	1,145	87.8	228,533	111.2	200	126.6	8,330	85	1,763,619	153	212	181
ねぎ	4,023	89.9	453,476	77.4	113	86.2	25,314	97	2,835,445	87	112	89
ブロッコリー	2,987	69.6	572,560	88.5	192	127.1	19,218	70	3,562,553	89	185	127
結球キャベツ	688	46.4	21,014	39.8	31	85.6	17,009	58	663,836	61	39	105
にんじん・かぶ	4,410	75.2	247,781	71.8	56	95.5	38,866	87	2,160,287	99	56	114
ごぼう	2,317	72.6	118,724	64.1	51	88.2	17,869	79	861,764	67	48	86
えんどう	70	33.9	23,777	37.9	339	111.7	1,138	66	399,029	63	351	97
アスパラガス	177	73.3	124,092	85.7	701	116.9	6,666	64	3,728,129	84	559	131
まつたけ	0	44.3	267	29.3	8,613	66.1	2	2,436	5,064	555	2,970	23
しいたけ	77	57.5	32,695	81.5	423	141.6	1,901	76	638,121	76	336	99
かぼちゃ	5,794	66.4	548,041	76.2	95	114.8	85,184	87	6,483,757	101	76	116
果実(生鮮・乾燥)	171,691	77.7	27,334,602	92.5	159	119.1	940,063	90	136,264,281	110	145	123
バナナ	83,678	80.6	7,561,354	102.8	90	127.6	492,304	88	40,438,004	110	82	125
パイナップル	15,386	81.6	984,770	86.4	64	105.9	89,093	103	5,320,253	104	60	102
レモン	3,038	55.8	495,754	70.4	163	126.1	22,555	90	3,145,981	107	139	119
オレンジ	16,592	58.2	1,872,581	66.9	113	114.9	67,046	75	7,418,627	87	111	116
グレープフルーツ	20,026	90.1	1,563,040	86.0	78	95.5	80,689	80	8,519,267	93	106	116
メロン	2,174	71.1	257,376	82.6	118	116.2	20,094	128	2,169,799	123	108	96
ぶどう	1,176	218.1	325,525	247.9	277	113.7	12,985	101	2,962,489	118	228	116
キウイ	9,820	66.5	3,352,451	66.0	341	99.3	30,818	88	10,174,154	85	330	96
いちご	313	103.8	301,475	123.5	963	119.0	368	91	355,762	112	966	122
切花(生鮮・乾燥)	2,663	98.8	2,069,390	104.5	777	105.8	20,947	100	16,527,572	105	789	105
鳥獣肉類	127,845	91.1	62,511,556	104.3	489	114.5	859,798	98	404,923,439	107	471	109
牛肉(くず肉含む)	35,927	77.2	18,939,719	96.7	527	125.3	243,083	101	122,666,615	121	505	120
豚肉(くず肉含む)	52,582	93.7	27,721,568	94.3	527	100.7	360,207	95	189,699,381	95	527	100
鶏肉	29,892	99.8	8,735,238	144.3	292	144.6	207,294	98	56,482,380	115	272	116
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	127,842	92.1	77,815,872	101.1	609	109.8	842,489	91	486,127,738	93	577	103
まぐろ類	14,482	83.3	10,237,919	79.0	707	94.9	104,624	95	86,582,439	91	828	96
さば・さんま・あじ・いわし	3,129	117.2	616,242	108.7	197	92.8	35,766	77	6,488,658	76	181	99

2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	160	174.8	149,338	146.6	934	83.9	8,123	373	3,142,304	257	387	69
うんしゅうみかん	6	198.8	7,067	197.0	1,180	99.1	157	133	87,493	120	559	90
りんご	77	174.1	31,494	135.3	408	77.7	7,561	408	2,550,266	308	337	76
なし	-	-	-	-	-	-	18	176	9,005	192	507	109
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	251,269	128.2	-	-	-	-	1,326,301	113	-	-
緑茶	222	116.6	527,750	121.4	2,380	104.1	1,293	124	2,959,490	129	2,289	104

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成22年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	22年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	25年 2月	99.2	95.8	106.1	98.5	99.0
	3月	99.4	90.2	104.2	98.2	99.5
	4月	99.7	90.7	100.7	98.3	100.3
	5月	99.8	87.1	104.4	98.5	99.5
	6月	99.8	85.7	103.4	98.4	99.9
愛 知 県	22年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	25年 2月	98.8	96.5	107.8	98.6	98.4
	3月	99.1	89.7	108.9	99.0	100.4
	4月	99.6	91.2	105.1	97.2	103.7
	5月	99.7	88.3	107.3	97.0	101.5
	6月	99.7	90.0	100.7	99.1	101.5

項目 年月		農業物価指数 (平成22年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	22年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	25年 2月	104.1	114.3	101.5	109.4	102.0
	3月	100.9	114.1	92.8	100.0	103.3
	4月	100.7	114.7	91.8	98.8	104.2
	5月	99.5	114.1	82.2	103.3	105.6
	6月	97.4	113.5	88.5	99.4	105.5

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、「コシ加」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
24年平均	2,112	147	178	629	457	297	160	350	229	558	665	165	564
25年 2月	2,151	147	169	559	729	296	159	327	211	564	595	173	449
3月	2,158	146	170	525	458	272	144	362	199	447	703	167	466
4月	2,167	143	183	504	469	278	133	401	209	463	634	150	475
5月	2,167	165	173	626	329	290	132	355	211	378	504	147	499
6月	2,158	124	170	645	284	282	133	363	209	470	496	155	544
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g	1 本	100g	100g	100g	100g
24年平均	582	283	352	177	211	805	534	153	168	306	225	797	398
25年 2月	564	325	347	158	209	800	520	147	173	308	218	864	383
3月	571	314	350	156	222	801	514	155	174	327	213	844	407
4月		287	333	143	238	728	531	156	163	319	211	790	420
5月		308	372	149	223	719	559	170	166	311	214	753	399
6月		304	387		210	781	557	141	167	311	223	742	409

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



いいともあいち運動って知ってる？

県内の消費者と生産者が今まで以上に**いい友**関係になる

Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

= もっと愛知県産品を食べよう (利用しよう)

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート 483
平成25年9月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6421